

令和4年度

# 印西市民アカデミーだより

第14号

## 講座 14 : 異文化について学ぶ

11月25日(金)、印西市企画政策課職員、印西市国際交流協会会長坂東昭二氏、同前会長吉原久雄氏を講師に招いて、「異文化」をテーマに講義していただきました。

初めに、企画政策課杉山氏から「印西市の国際化、多文化共生施策」について説明していただきました。印西市では、社会情勢の変化に伴い、外国人の増加や国籍の多様化が進んでおり、外国人を含めたすべての市民が互いの文化や価値観を受け入れ、理解しあいながら、ともにいきいきと暮らせる多文化共生のまちづくりをさらに進めていく必要があることから「印西市国際化推進方針」(令和3~7年度)を策定しました。この方針に基づき、異文化理解講座やイングリッシュトトレセン、外国人市民懇談会等の事業展開や市広報英語版の発行、防災総合ガイドブックの多言語化事業等を推進しています。

<b>印西市国際化基本方針</b>	
方針1	多文化共生のまちを育む環境づくり
施策の方向 (1) 多文化共生意識の醸成	
(2) 外国人市民の活躍する場づくり	
方針2	外国人市民も安心して暮らせるまちづくり
施策の方向 (1) コミュニケーション支援 <span style="float:right">図1</span>	

次に、坂東会長から印西市国際交流協会の活動について丁寧に説明していただきました。本協会は、身近な外国人との交流を通して、この愛する印西の地を日本人と外国人が国籍・出身地を問わず、お互いの個性や文化を尊重し合う、真の多文化共生の街に変えていくことをめざしています。現在、印西ワールドフェストやフレンドシップ・カフェや交流バスツアー等の交流イベントの開催、外国人に対する日本語学習支援を目的に開設した「日本語教室 りぼん」、各種語学講座(韓国語、中国語、英語)の開催等を通して国際親善と交流のために頑張っています。令和4年9月に「国際交流サロン(仮称)」がおおもりまちづくり会館内に開設され、より一層の活動の推進が期待されています。



印西市国際交流協会の活動について...

続いて、前会長吉原氏から南太平洋の島国「トンガ王国」についてのお話がありました。現在、トンガ王国では、海底火山爆発(2022.01.15)に伴う降灰や津波により、空港や港湾、道路等の社会インフラ設備、住居や商店等が大きな被害を受けました。また、ウクライナ戦争の影響で、オイル価格が高騰し、空港・船運賃が連動して高騰し、貿易の大きな障壁になっています。さらに、ココナッツやカボチャ等の輸出用コンテナが不足していて輸出に支障をきたしています。これは、コンテナ主生産地の中国がゼロコロナ政策のため経済が停滞しコンテナの生産が減少していることに起因しています。これらの復興にかかる莫大な費用や資材不足に対して世界中の国々や企業、個人による支援を必要としています。



トンガ・トンガ=トンガ・ハアパイ火山の大噴火